

《平成24年度 薩摩川内市事務事業評価表》

1 事務事業の位置付け(Plan)				内部評価者名 課長・室長・支所長	橋野 巧
事務事業名	青少年フレッシュ体験事業			担当者	松下 千秋
所管部課名	教育部 社会教育課			事業の根拠 (根拠法令)	
事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設管理 <input type="checkbox"/> 内部管理				
総合計画上の 位置づけ	施策の 基本方針	政策 (章)	地域の特色を活かした教育・文 化のまちづくり	主要施策 (節)	青少年の健全育成
				施策 (項)	青少年の健全育成
予算科目等	会計	一般会計		教育費	
	項	社会教育費		社会教育総務費	
	事項	青少年対策費	細事項	青少年育成事業費	

事業の概要

有島三兄弟の文学と芸術作品を訪ねる感動体験、自然体験及び交流活動を通して、心身ともにたくましい青少年の育成と、集団生活の中での幅広い視野を養うため、隔年で北海道ニセコ町を訪問し、実施する。

2 事務事業の実施 (Do)

事業の 内容	対象 (誰を、何を対象とする事業か)	市内小学5、6年生、中学生		事業開始年度		平成17年度		
	手段 (市がどのような活動をするか)	参加者を募集し、北海道ニセコ町で小中学生に各種の体験活動を体験させる。なお、23年度は受入れ、24年度は派遣となっている。	活動指標 (市として何をを行うか?)	指標名	①	応募者数		
				最終目標値	①	80人		
	意図 (どのような目的で事業を行うか)	有島三兄弟の文学と芸術作品を訪ねる感動体験、自然体験及び交流活動を通して、心身ともにたくましい青少年の育成と集団生活の中での幅広い視野を養う。	成果指標 (活動をした上で、目標となる成果をどのように設定するか?)	最終目標値	①	参加者の満足度		
最終年度				①	100%			
コスト・ 指標の 推移	項目	単位	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 (見込み)	平成25年度 (見込み)	平成26年度 (見込み)	
	事業費	国・県支出金	千円					
		その他						
		一般財源		3,359	203	3,510	210	3,510
		合計(A)		3,359	203	3,510	210	3,510
	従事職員数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費(B)	千円	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
	従事嘱託員数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	人件費(C)	千円	0	0	0	0	0	
	トータルコスト	千円	4,959	1,803	5,110	1,810	5,110	
活動指標の推移	①	人数	76人	22人	80人	24人	80人	
成果指標の推移	①	人数	22人	22人	24人	24人	24人	
	②	%	100	100	100	100	100	

事業費の主な支出内容(事業内容がわかるよう、支出する主なものを記入してください)

青少年フレッシュ体験事業業務委託料96.9%、報償費1.6%、消耗品費1.2%、手数料0.3%

3 事業の視点別評価 (Check)

対象・手段の妥当性 妥当である 改善の余地はある 妥当でない

妥当性	(上記選択の理由) 本事業の対象者は、人格形成に資することができ、体力的にも集団活動についていける時期である小学校高学年、及び中学生を対象としている。また、派遣先は普段経験することのない寒さの中での自然体験のできる場所であり、本市と文学館の姉妹館盟約を結んでいる北海道ニセコ町としている。	資料2
	市が関与すべき妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市で実施すべき <input type="checkbox"/> 民間でも可能 <input type="checkbox"/> 民間で実施すべき
効率性	(上記選択の理由) 派遣の際は市長から町長への親書を預かって行くなど、姉妹館盟約を結んでいる市町間の文化交流の役目も担っている。「青少年の体験活動、交流活動の促進」については、市の総合計画実施計画にも位置付け、活動の場や機会の提供に努めることとしている。	
	事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> ある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地はない
有効性	(上記選択の理由) 毎年派遣していた事業を、現在は隔年の派遣としており、これ以上の削減は無理である。	
	人件費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> ある程度ある <input type="checkbox"/> 削減余地はない
有効性	(上記選択の理由) 現在も担当者は一人であり、これ以上の削減はできないが、委託料にある大人の引率者8名の経費については人数調整の余地はある。	
	成果の達成度	<input checked="" type="checkbox"/> かなり高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い
有効性	(上記選択の理由) 本事業は、日常では得ることのできない状況での体験であり、参加することによって人格形成(くじけない心、協調性、リーダーシップ等)に資することができる貴重な事業として役立っている。これまでまとめた派遣者の事業報告では、全ての参加者が満足した旨の報告を寄せている。	
	成果の向上余地	<input type="checkbox"/> かなりある <input checked="" type="checkbox"/> ある程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
有効性	(上記選択の理由) 人生の幼い時期に、身をもっての学習や体験、交流など、その後の人生に大きな効果を及ぼすものである。参加者は、これまで報告書を提出していただいているが、全員が参加して良かったと満足している。	
	4 事業の改革・改善の方向性 (Action)	
内部評価 (一次)	①今後の改革の方向性	
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒ 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	
	②上記方向の理由 青少年の体験不足が叫ばれている今日、本事業は貴重である。また、本年度から青少年海外派遣事業を廃止したこともあり、唯一残る本事業は継続したい。	
内部評価 (二次)	③改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画 青少年の事業やイベントの中で、その体験を発表出来る場を設けたり、各子ども会などでもリーダーとして活躍できるよう、関係団体等と協力して活躍の場を作っていく。	
	評価者名	教育部長 田畑逸郎
	①内部評価結果	
妥当性 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い		
効率性 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い		
有効性 ⇒ <input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> 低い		
内部評価 (二次)	②今後の改革の方向性	
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 見直しの上で継続 ⇒ 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合 <input type="checkbox"/> 手段の改善 <input type="checkbox"/> 移管 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	
	③上記の改革・改善の内容とそれを実施していくための手段・計画(内部評価一次と違う部分) 事業実施後の活動フォローの検討	